

信徒の友

信仰生活を豊かにする
キリスト教雑誌

2014

9

▶ 特集

ひきこもり

生きづらさに寄り添って

ひきこもりとは何か

臨床心理士、牧師 高橋良臣

京都教区の取り組み……………倉橋剛

親の会や自助グループへの参加の
ススメ……………月乃光司

イエズス会・七十二人の集い…沖下昌寛



ここに教会がある
香川豊島教会
香川直島伝道所

部落解放全国活動者会議in会津
「原発」という差別



ここに教会がある

香川^{てしま}豊島教会

賀川豊彦が播いた福音の種を育てて



〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦2467



香川直島伝道所

アートの島に祈りの教会を



〒761-3110 香川県香川郡直島町宮ノ浦1272-1

撮影・小林 恵



(上) 白い円の中が教会。(下) 手前は教会。左奥には豊島の最高峰檀山がそびえる



日曜礼拝に集った人々。賀川豊彦が創設したイエス団の施設が島に多くあるため、その職員や家族、また豊島にかつてあった農福音学校の関係者が多い

昨年2月に召された小国牧師は島の伝道に生涯を捧げた。祈りの人だった(提供写真)



礼拝後の愛餐会

香川豊島教会

瀬戸内海東部。四国の香川県側と中国地方の岡山県側との間の瀬戸内海に大小の島々が浮かぶ。ここには日本基督教団に属する内海教会、香川豊島教会、香川直島伝道所という3つの教会がある。今回記者は香川豊島教会と香川直島伝道所を兼務する田中暉彦牧師に付き添って両教会の礼拝に参加した。

この教会の歴史は賀川豊彦抜きには語れない。賀川は教会ばかりではなく、島の歴史にも大きな足跡を残した。それは、彼が創設した社会福祉法人イエス団の施設(乳児院「豊島神愛館」、特別養護老人ホーム「豊島ナオミ荘」、「瞳保育所」および知的障害者施設「みくに成人寮」(前身は「神愛保育園」)が今も島で大きな働きをしていることからわかる。

1938(昭和13)年、賀川は全国の同志やキリスト教関係者の協力を得て豊島に結核患者の療養施設を作る構想を持ち、翌年に療養所を開設した。ところがこの療養所は島民の反対にあって閉鎖せざるを得なくなり、代

田中暉彦牧師（左）は高松市在住で週末に来島する



農民福音学校創設者故・藤崎盛一氏のご家族



豊島神愛館勤務の伊藤真紀子さんと娘のまりあさん



わりに人里離れた神子ヶ浜に「ウエスレー館」と呼ばれる施設を建て、困窮者、信徒らと共に共同生活を始めた。

同じころ豊島でもう一つのキリスト教の動きがあった。賀川とともに農民福音学校を東京の武蔵野で開いていた藤崎盛一が新天地を求めて豊島にやってきたのだ（8月号に関連記事）。なぜ藤崎は豊島を選んだのか。理由はさまざまに考えられるが、豊島は豊富に水が湧き、農業の適地であったことが最大の理由だったと考えられる。

しかし太平洋戦争が激化すると賀川は反戦的言動がとがめられて軟禁状態となり、藤崎は徴兵されて満州に渡った。この2人が島でのそれぞれの活動を再開したのは戦後のこと。藤崎は農民福音学校を始め、賀川は、信徒が始めた集会のために藤原力牧師を招いて教会形成を委ね、自身は全国各地を回って社会運動と伝道に邁進した。

こうして始まった集会在教会となったのは47年である。初代牧師は藤原力牧師。藤原牧師の後は河野進牧師が一時兼務し、その後金子益雄牧師が牧会した。金子牧師の後任となった小国清

戦前、賀川豊彦が
移り住んだ神子ヶ
浜は緑に囲まれた
静かな場所



賀川が住んだ「ウエス
レー館」は藪に覆われて
近づけない。近隣に住む
砂川三男さんが当時の思
い出を語ってくれた



賀川豊彦（左）と
藤崎盛一（提供写真）

イエス団の経営する乳児院「豊島神愛館」（左）と特別養護老人ホーム「豊島ナオミ荘」

子牧師は、伝道師時代を含めると実に55年間も豊島と直島の伝道に身を捧げ、89歳で昨年2月に天に召された。質素で素朴、それでいて伝道熱心、いつも祈っていた姿が印象的だったと信徒は思い出を語る。人をとことん信じる人で、そのためにだまされることも多々あったが恨んだり非難することとはなかったという。泥棒に入られたときは現金を渡して、「これで二度と悪いことをしないように」と語った逸話が残っている。そんな小国牧師だが、産業廃棄物が不法投棄されて全国的に有名になった、いわゆる「産廃事件」では県知事に手紙を出したり、住民会議には必ず参加して反公害の立場を示したという。

現任の田中牧師はその小国牧師の甥にあたる。定年までは信徒として全国を飛び回った転勤族だったが、献身して牧師となった。小国牧師から「豊島に来ないか」と誘われて97年に伝道師として赴任。以来、小国牧師と一緒に歩んできた。今は分区の牧師に助けられながら週末には自宅のある四国・高松市から豊島、直島へと周り、伝道・



フェリーが着く豊島家浦の古い街並



香川豊島教会の礼拝が終わり、午後の早い便で香川直島伝道所に向かう田中牧師

豊島より直島を望む（煙突の立っている島）。手前は反公害闘争の象徴となった産廃の不法投棄場所付近

牧会を継承している。

直島同様、豊島でも近年アート関連の施設がたくさんでき、観光客も増えてきた。そうした観光客への伝道と共に、賀川豊彦と小国清子の記憶を継承しようと、教会では隣接する民家を改修して2人の記録を展示する記念館を作る準備を進めている。豊島教会を支えているのは藤崎家の人々と賀川関連の施設の職員である。その人たちが先人の記憶を継承し、島の教会としてバトンを次代に渡そうとしている。

香川直島伝道所

豊島から直島までは高速船で22分で行ける。三菱マテリアルの製錬所がある直島は豊島とはまったく異なる空気感の島だ。さらに近年は「アートの島」としても全国的に知られ、島内至る所に美術館やアート作品があり、多くの観光客が訪れる。その街中に、鬱蒼とした桜の木に囲まれた古びた会堂がある。香川直島伝道所だ。

現住陪餐会員は5名いるが実質は3名。活動会員は久保和男さんと西村イ



田中牧師（左端）と香川直島伝道所の信徒久保和男さん（中央）と西村イツ子さん（中央左）。応援に来ていた木村一雄牧師と妻の木村陽子さん



伝道所の活動会員は2人。会計、書記と、役職がなくなることはない。しかもこれから新会堂の建築工事が始まる



港から坂を上り続けると教会案内が出迎える



ツ子さんの2名のみ。その教会が今、新会堂建築に向けて歩みだしている。

直島での本格的な伝道は戦前に阿波池田教会の牧師だった立石芳松牧師の郷里伝道にさかのぼる。この立石牧師より、西村イツ子さんの父満国さんが洗礼を受けている。戦後は豊島教会の牧師であった金子牧師や小国牧師が引き継いだ。

もちろんその間も、そしてその後も、香川分区の諸教会が一致して直島伝道所を支え続けた。この事情については分区長を勤めたこともあり現在も分区内に住む木村一雄牧師が、「島の伝道は周りの支えがなければ続きません。教区でも、島から福音の灯を消さないために支援してきました」と語る。

今回、新会堂建築に踏み切ることができた理由は、亡くなった小国牧師が直島伝道所の会堂建築のために多額の遺産を残してくれたことと、分区の協力があつてのことだ。さらに教会としては諸教会に献金を訴える予定だ。

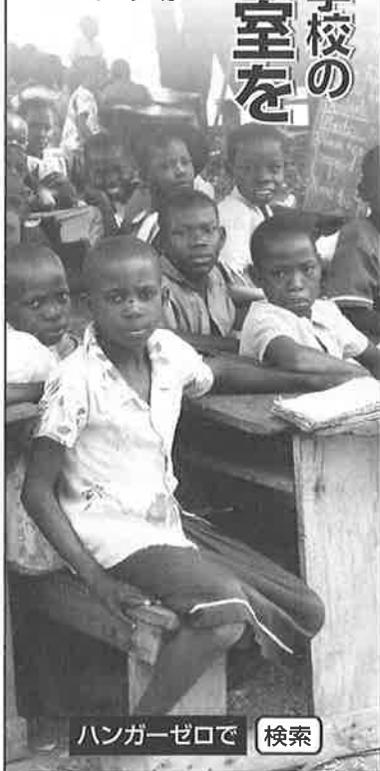
教会としては、せっかくアートの島に会堂を作るのだから、世界中から訪れる観光客に伝道する教会、世界に向

*インターネット検索「アートの島直島に祈りの教会」で伝道所の建築趣意書を見ることができる



ウガンダ・カサレ小学校の 子どもたちに教室を

500名が学ぶ小学校には教室が
2つしかなく、半数近くが青空の
下での勉強を強いられています。
ぜひ教室建設を応援ください。



ハンガーゼロで **検索**

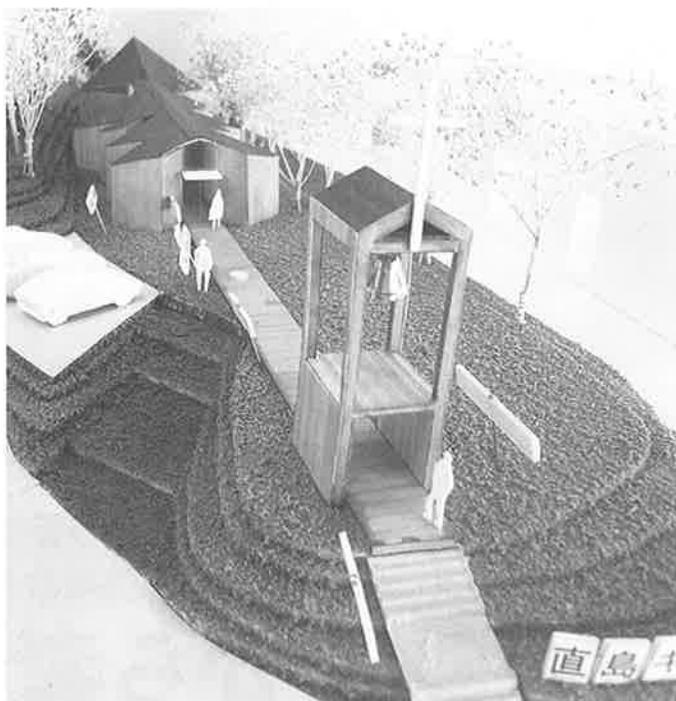
募金:1口 5,000円
目標:1,000口

郵便振替 00170-9-68590
日本国際飢餓対策機構「ウガンダ
学校建設」と必ず記入して下さい。
ウェブサイトからクレジットカード
で今すぐ募金ができます。

一般財団法人

日本国際飢餓対策機構

〒581-0032 大阪府八尾市弓削町3-74-1
電話072-920-2225 FAX072-920-2155
ホームページ <http://www.jifh.org/>



新会堂の完成模型。細長い土地の形と起伏を生かした教会堂。



模型を用いて学生に授業をする田淵氏(中央右。提供写真)

けて発信する教会を建てたいと、大きな希望を抱いている。具体的には、長方形の敷地に細長くて斬新な形の会堂を作り、各国語で書かれた聖句や聖書を展示し、静かな黙想スペースも確保しようと考えている。

この夢のある事業の設計に携わっているのは教会堂建築に造詣が深い大岡山建築設計事務所の田淵諭さん(東京・小金井教会員)。教鞭をとっている多摩美術大学の学生と一緒に、観光地に立つのにふさわしい会堂作りをと、毎月島を訪れては話し合いを重ねている。

島の人口流出が続く中で、世界を視野に収めた会堂作りをわずかな会員が夢見て歩み始めている。